



# ジャーナル社長の 共生社会の“トビラ”をあけよう!

Open the doors for an inclusive society!

PICK UP!

当媒体でも何度かご紹介してきた「しまむらストアー」を運営する株式会社しまむらと社会福祉法人進和学園の障害者就労支援施設「しんわルネッサンス」が取り組む施設外就労活動連携。その活動は10年にも及びます。今年9月しまむらは「高齢・障害・求職者雇用支援機構」から2度目の表彰を受け、地域連携や共生社会を大切にするしまむらイズムがさらに色濃いものとなりました。

## 第1回 共生社会の実現を体現し続ける「しまむらストアー」の現場へ

### 「平塚にしまむらさんがあって良かった！ この一言に尽きる」

この活動を支えてきたしんわルネッサンスの出縄輝美支援員は笑顔いっぱいにご話します。施設外就労の場の獲得は、私たちが想像する以上に難しい現状があり、出縄氏は、たくさんの地域企業に直接電話をかけお願いをしてきましたが、大半は「難しい」と厳しい回答だったそう。ましてや、スーパーマーケットで障害者が働くというのは、課題が多くハードルが高いとされてきました。しかし、しまむらストアーは就労の場を提供し、企業として自ら障害者雇用もしてきました。そんなしまむらストアーでの作業は、しんわルネッサンス利用者に大人気。施設外の緊張感が良い刺激とやりがいとなり、お客さまからの声かけは働くモチベーションとなっているそうです。

「出縄さんの明るさと元気に引っ張られてきたともいえます。共に無理なく話し合い、やってこれました」とは、しまむらの島村雅之社長。



島村社長と出縄支援員も一緒に

「スーパーで働かせてもらうってすごい事なんです。これまでに従業員の困惑や反発はなかったのでしょうか？」という出縄氏の質問にも「しまむらでは、もうあたりまえで普通のこと。特に何もありませんよ」とやさしい笑顔で答えておられました。

社会の障害をはねのけるようなしまむらの包容力としんわルネッサンスの皆さんの仕事への前向きな思いが、この連携活動の根幹であり、「理想的な共生社会」の一端を垣間見ることができました。障害もさまざま、その障害や個性に合った活躍の場は、じつはまだまだ私たちの職場や周りにもあるのでは？ ぜひ障害について考える時間を少しでも持ち、共生社会実現への扉を一緒にあけていきませんか？



野菜の袋詰をテキパキこなす佐野さん(左)と北村さん(右)



しんわルネッサンスのトマトジュース



(株)しまむら



しんわルネッサンス